

植田 克己 (うえた かつみ) ピアノ

札幌生まれ。東京藝術大学音楽学部を経て同大学院音楽科研究科修了。故伊達純、松浦聖明各氏に師事。在学中第38回日本音楽コンクール入賞。1971年安宅賞。73年にクワイアーズ賞を受賞。ドイツのデトモルト北西ドイツ音楽アカデミー、ベルリン芸術大学でクラウス・シルベ氏に師事。77年ロシア・ソ連国際コンクール第2位入賞。78年イタリアの芸術家フェスティバルで、ヴィルヘルム・ケンプ氏によるベートーヴェン作品の講座に参加。同年から79年までベルリン芸術大学助手を務め、1980年の帰国まで欧州各地で演奏活動を展開。NHK交響楽団、札幌交響楽団、東京都交響楽団などと共演し、室内楽者としても活躍する。1986年より2005年まで27回に亘り植田克己ペーソスシリーズを開催して、独奏曲、室内楽曲はほぼ全曲を網羅して演奏。日本音楽コンクール委員、かずさ音楽コンクール委員、2001年ドイツのケルン国際音楽コンクールで2004年仙台の国際音楽コンクール審査員、東京藝術大学教授

小田桐 寛之 (おだぎり ひろゆき) トロンボーン

札幌出身。1976年、洗足学園大学卒業と同時に東京ブラスアンサンブルに入団。日本全国での演奏会のほか、80年には同団アルバム「デジタルマーチ」に参加。81年、アメリカのデンバーで行われたインターナショナル・トロンボーン・ギルドにて招待演奏。82年、東京トロンボーン四重奏団(TTQ)結成。現在まで16回のリサイタルを行う。86年、東京都交響楽団に首席奏者として入団。現在に至る。87年、ファースト・アルバム(TTQリサイタル・エッセント)をリリース。88年、オーストラリアで行われたインターナショナル・トロンボーン・シンポジウムにて2度の0招待演奏会と特別講習会を行う。同年、韓国にて特別講習会及び特別公開クリニックを行う。89年、香港にて特別演奏会及びマスタークラスクリニックを行う。91年より洗足学園音楽大学の講師。92年より昭和音楽大学の講師。93年、作曲家ブルース・スタークのアルバムにソロとして参加。95年、96年にチヨコ・ミュージック指揮のシアフィルに首席奏者として参加。同年、TTQセカンド・アルバム「シグナル」をリリース。2000年、TTQサード・アルバム「アリアント」をリリース。ファースト・アルバム「モルト・トロンボーン」をリリース。同年、サ・ブラス・セクステット結成。すみだトリフォニー大ホールにて1回リサイタルを開催。01年、同アンサンブルのファースト・アルバム「ラグタイム・ダンス」をリリース。02年、サイトウ・キネン・オーケストラに参加。03年、サ・ブラス・セクステットのセカンド・アルバム「パード・ランド」をリリース。04年、東京メトロポリタン・ブラス・インテットのファースト・アルバム「ワシントン・ポスター」をリリース。05年、東京メトロポリタン・トロンボーン・ quartetのファースト・アルバム「セブ・イン・プレッジョン」をリリース。同年、東京メトロポリタン・ブラス・インテットのセカンド・アルバム「ロメオとジュリエット」をリリース。また初のソロアルバム「スカラムーシュ」もリリース。現在、東京都交響楽団首席奏者、東京メトロポリタン・ブラス・インテット、東京メトロポリタン・トロンボーン・ quartet、サ・ブラス・セクステット各メンバー。洗足学園音楽大学助教授。昭和音楽大学講師。

小原 浄二 (おはら じょうじ) バス

岩手大学卒業。東京芸大音楽科に進学し首席で卒業。松田トシ貴受賞。同大学院独唱科修了。佐々木正利、伊藤直行、多田輝迪夫の各氏に師事。ドイツ・トロ、オランダを中心に研鑽を積み、東京芸大時代には小林道夫氏のもとバッハカンタータクラブに所属し研究、演奏を行う。その後、国内外の演奏会にソロとして出演。1992-1994年には鈴木雅明氏が音楽監督を務める「パッハコレギモジアル」のコンサートマスター及びリサイタルとして活躍。1994-1995年、ドイツに留学し、H.クレッチマール氏に師事すると共に多数の演奏会に出演。特に、ミュンヘン、ヘラクスホルムにおけるニコルベルク交響楽団定期公演、J.ツィルビヒャー指揮、ハイデル「天地創造」バスソロなどは、現地新聞紙上等において絶賛される。帰国後も全国各地に招かれてソロ活動を行い、宗教音楽の世界の名指揮者である、H.J.ロツヒュ、G.Ch.ピラー等との共演や、日本フィルハーモニー交響楽団定期公演における、G.ボッセとの共演のほか、関西フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、スウェーデン放送合唱団との共演など高い評価を得ている。現在、高知大学教育学部助教授。高知バハカンタータフェライン指揮者。アンサンブルBWV2001各メンバー。

小原 伸枝 (おはら のぶえ) アルト

岩手県釜石市出身。岩手大学教育学部及び東京芸大音楽学部音楽科卒業。同大学院修士課程独唱科修了。声楽を、佐々木正利、伊藤直行、伊原直子の各氏に師事。NHK洋楽オーティション合格。東京芸大在学中はバッハカンタータクラブに在籍し、小林道夫氏の指導のもと研究、演奏を重ねる。92-94年パッハコレギモジアルに所属し、カンタータ連続演奏会などで多くのソロを歌う。94-95年ドイツに留学し、ヘルムート・クレッチマール氏に師事すると共に、多数の演奏会においてリサイタルを積極的に果たす。帰国後も全国各地に招かれてソロ活動を行い高い評価を得ている。現在、高知大学教育学部非常勤講師。高知バハカンタータフェライン、アンサンブルBWV2001各メンバー。

甲藤 さち (かつとう さち) フルート

東京芸術大学卒業。甲藤卓雄、林リリ子、岸祥士、吉田雅夫、金昌国の各氏に師事。トッブラーフルートコンクール第3位。第53回日本音楽コンクール入賞。第2回日本フルートコンベンションコンクール第1位及び特別賞受賞。新築日本交響楽団を経て、東京交響楽団に入団。現在の同団の首席フルート奏者として活躍する。また、東京・高知で定期的なリサイタルを開催し、国内外の同団フルートソロを数多く務めるなど、ソロ奏者としても高い評価を得ている。木管五重奏団「ラコンタート」主宰。管打混合ユニット「マジカルサウンズ」メンバー。

高知バハカンタータフェライン 合唱

高知バハカンタータフェラインは、1997年4月高知大学助教授小原浄二氏の呼びかけにより、J.S.バッハを中心とするバロックおよび古典の音楽作品を研究、演奏する団体として発足。メンバーは合組経験も年齢も多岐多様だが、小原氏の指導のもと心一つに練習に励んでいる。1998年3月の第一回演奏会以来毎年春に演奏会を開催。バッハのカンタータを多数、J.S.バハ受難曲、モテット、モンテヴェルディやヴェンツェルの作品を取り上げ「土佐の地にバッハ」の想いと共有意義的な活動を行う。2002年にはドイツから初来日したライプツィヒ・バロックオーケストラと共演し、コンサートマスターより光を放つような素晴らしい合唱と高い評価を得る。また、そのほか2004年にはドイツ旅行を果した、アイゼンハ、アイズレーベン、ライプツィヒなどバッハゆかりの地での演奏会に出演。その暖かき音楽と確かな表現力は現地で絶賛された。

西條 貴人 (さいじょう たかひと) ホルン

旭川出身。1989年東京芸術大学卒業。90年第59回日本音楽コンクール第3位入賞(1位以下)。在学中安宅賞受賞。97年第14回日本音打楽器コンクール第1位入賞。98年第67回日本音楽コンクール第1位入賞。窪田昌吉氏、守山光三、千葉真、松崎裕、笠松長久の各氏に師事。現在、東京都交響楽団員、東京メトロポリタン・ブラス・インテット、JAPAN HORN QUARTET、アレキサンダー・ホルン・アンサンブル「ジャパ」メンバー。国立音楽大学講師。

佐藤 潔 (さとう きよし) テューバ

群馬県高崎市に生まれる。1983年、東京芸術大学卒業。メリーランド大学(アメリカ、ワシントンD.C.)で行われた世界チューバ協会のカンファレンスに参加。1984年、第2回インターナショナル・ブラス・カンファレンスに参加。世界チューバ協会主催の学生ソロコンクールに入賞。1985年、南カリフォルニア大学(アメリカ、ロス・アンゼルス)に留学。同大学専攻科修了。1986年、第3回日本音打楽器コンクール第2位入賞(1位以下)。1995年、ノースウェスタン大学(アメリカ、イリノイ州)で行われた世界チューバ協会のカンファレンスにゲストソロリストとして参加。1997年、リヴァレ・ガルダ(イタリア)で行われた世界チューバ協会のカンファレンスにゲストソロリストとして参加。1998年、ミネソタ大学(アメリカ、ミネソタ州)で行われた世界チューバ協会のカンファレンスにゲストソロリストとして参加。リサイタルが好評を得る。1999年、シドニー(オーストラリア)で行われたチューバ・アンサンブル主催のカンファレンスにゲストソロリストとして参加。ソロとアンサンブルのコンサートで演奏。2001年、ラハイティ(フィンランド)で行われた世界チューバ協会のカンファレンスにゲストソロリストとして参加。チューバを、大石清、多戸久夫、Tommy Johnson、Roger Bobo、Jim Self、各氏に師事。現在、東京都交響楽団チューバ奏者、戸野オサム、テューバ「四重奏団」[獅子舞]など室内楽奏者としても活動。またクラシック奏者としてだけでなく「村田陽一とSOLIDBRASS」にも参加。スタジオミュージシャンとして映画やアニメのサウンドトラック、CM音楽、多くのアーティストのアルバムなど様々なレコーディングに参加している。洗足学園音楽大学客員助教授、武蔵野音楽大学非常勤講師。

高橋 敦 (たかはし おさむ) トランペット

富山県生まれ。洗足学園魚津短期大学を経て、洗足学園大学を卒業。トランペットを津堅智弘、関山幸弘、佛坂咲千生の各氏に師事。第65回日本音楽コンクールトロンボーン部門第1位。第13回日本音打楽器コンクールトロンボーン部門第1位。これらの功績が認められ、富山県来財団から「とよま賞」を受賞。1996年、新築日本交響楽団(現、東京フィルハーモニー交響楽団)にアシスタント首席奏者として入団。1999年、東京都交響楽団の首席奏者に就任し現在に至る。また、トクウウ・モーツァルト・ブラス・インテットの首席トランペット奏者も務めている。その他、東京メトロポリタン・ブラス・インテット、なまきパストリスティエン、MOSTLY TRUMPET THE MOSTI他メンバー。札幌国際音楽祭、宮崎国際音楽祭、防府音楽祭などに定期的に出演し、東京都交響楽団の定期公演ほか、その他のオーケストラや吹奏楽団、韓国国際音楽祭などにソロとして迎えられている。ソロアルバム「ラプソディー・イン・ブルー」、「ハイデル・ペーソス・ヘンテット」トランペット作品集「をマスター・ミュージックからリリース。洗足学園音楽大学、東京音楽大学、山陽女子高校各講師。

中山 隆崇 (なかやま たかし) トランペット

香ヶ岡市出身。武蔵野音楽大学卒業。シエナ・ウインド・オーケストラ、東京都交響楽団を経て東京都交響楽団へ入団。1998年度アフィニス音楽文化振興財団の奨学金によりミュンヘンに留学。ミュンヘン・フィルハーモニー・オーケストラ首席奏者キッド・セガース氏に師事。これまでにトランペットを久保義一、故 中山富士雄、渡辺郁夫の各氏に師事。現在、東京都交響楽団員、東京メトロポリタン・ブラス・インテット、THE TRUMPET CONCERT、MOSTLY TRUMPET THE MOSTI他メンバー。

馬込 勇 (まごめ いさむ) ファゴット

国立音楽大学付属高等学校にてファゴットを三田平八郎氏、近藤善行氏に師事。卒業後、渡欧。日本人初のウィーン・フィル学生としてカール・エールベルガー氏に師事し、ウィーン国立音楽大学管打楽器科を首席卒業。ミュージック・ライオンズ定期演奏会にてソロデビュー。ウィーン交響楽団他30を越える著名オーケストラとファゴット協奏曲を共演。CDはウィーン・ブライナー、日本コロムビア、ポニーキャニオン、カメラータより多数。22歳でリンドン・ブルクナー管弦楽団首席ファゴット奏者に就任し、18年間勤める。1978年ウィーン・ヴァン音楽コンクール第一位入賞。第36回ヴィオッティ国際音楽コンクール特別賞。1981年オーストリア文化大臣受勲賞。1988年から1993年、中国中央音楽院客員講師。1990年ウィーン・モーツァルト協会賞のほか、1990年オーストリアより功労勲章を受賞。1999年、池辺晋一郎、外山雄三、西村耕一、吉松隆の各氏に師事。現在、平成音楽大学教授、国立音楽大学講師。

松崎 裕 (まつざき ひろし) ホルン

東京藝術大学で千葉麗児氏に師事。1971年に新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者として入団。1975年よりハイエルン放送交響楽団首席奏者のジャック・メティス氏に師事。翌年よりハイエルン国立歌劇場管弦楽団に入団。その間カール・リヒター指揮のミュンヘン・パッサ管弦楽団、カール・ミュンヘン指揮のシュトゥットガルト室内交響楽団などで、ヨーロッパ各地の音楽祭に出演。1980年の帰国後、NHK交響楽団の首席奏者に就任。ヴォルフガング・サヴァリツスキ氏の指揮でR-シュトゥットのホルン協奏曲1番及び2番を演奏するほか、再氏と室内楽でも共演。様々な音楽祭や室内楽で活躍する。東京芸術大学、東京音楽大学の各講師。洗足学園音楽大学助教授。

三谷 真紀 (みたに まき) オーボエ

高知県生まれ。土佐女子高等学校を経て、1988年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。同年NHK新人洋楽オーディション合格。[FMデューリサイタル]に出演。1989年渡米。ノースウェスタン大学スペシャルステューデントコースを修了。この間、シカゴシビックオーケストラで演奏活動を行う。帰国後、高知県芸術祭への出演などソロリサイタル活動を経て、1993年3月から2001年3月まで新築日本交響楽団首席奏者に就任。2001年4月より東京フィルハーモニー交響楽団オーボエ奏者。紀尾井ホールにおいて新築日響管弦楽による「ムンライトコンサート」にソロリストとして出演。アフィニス音楽祭に参加するなど積極的な演奏活動を行う。また室内楽では「アンサンブルゆいまる」のメンバーとしても活躍している。オーボエを小島繁子、レイ・ステイル両氏に、又イングリッシュホルンをグローバー・シュルツ氏に師事。

宮田 信司 (みやた しんじ) ピアノ

1958年名古屋生まれ。東京芸術大学音楽学部器楽科卒業後、渡欧。1984年リューベック国立音楽大学をコンツェルトエグザメーン(演奏家資格試験)に合格し卒業。ハンブルク交響楽団とシバマンピエノ協奏曲第1番共演のほか、各地で演奏活動の後、帰国。名古屋、東京、高知などでソロリサイタル、デュオリサイタルに出演。近年は室内楽の分野でも活躍中。藤井博子、小池裕子、伊藤純、甲田昭三、ローランド・クラーの各氏に師事。現在、高知大学教育学部教授。(財)日本ピアノ教育連盟特別協議員、同四国西南支部支部長

山本 友重 (やまもとともしげ) ヴァイオリン

1969年名古屋生まれ。4歳よりヴァイオリンを始める。名古屋市立南陽高等学校音楽科を経て東京芸術大学音楽学部に入学。第39回全日本学生音楽コンクール名古屋大会第2位受賞。第10、11回沖繩ムービー・ミュージックフェスティバルに参加。第10回群馬音楽祭に参加。特別奨励賞受賞。イタリアのレジオ・エミアで行われた、第2回パオロ・ボルチアーノ賞、国際弦楽四重奏コンクールに、するば弦楽四重奏団として参加。第3回及び特別賞受賞。副賞としてフランス、パリの国際クワルテット・フォーラムに招待され、シャンゼリゼ劇場で演奏し、好評を得る。松尾財団室内楽コンクール第1位受賞。東京国際音楽(民音)コンクール室内楽部門で、第2位受賞。大学在学中より、するば弦楽四重奏団、アール・レスラント、ジャパンチェンバーオーケストラ、フェスティバル・ソリスト、日本各地の音楽祭などでの室内楽的な活動に意欲を燃やす傍ら、数多くのオーケストラのゲストコンサートマスターを務めた後、若年22歳で東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のコンサートマスターに就任。8年間に亘り重責を担って来たが、99年、退団。2000年からは、東京都交響楽団のコンサートマスターに就任。ここで活躍も大いに期待されるところである。またNHK FMリサイタルや、98年から99年の自主企画によるリサイタルをはじめ、ソロリストとしても活動を展開させている一方、多数のアマチュアオーケストラやアンサンブルのトレーナーとしても評価が高い。これまでに、ヴァイオリンを大沢英夫、北垣紀子、林茂子、泉山誠治、田中香雪、ヨゼフ・スークの各氏に、室内楽を藤田幸一郎、ヤン・バネカン、スメタナS.Q.、ラサールS.Q.、アマテウスS.Q.の各氏に師事。現在上野学園非常勤講師。

山本 正治 (やまもとまさはる) クラリネット

1972年、第41回NHK毎日音楽コンクール管楽器部門第1位入賞。1973年、東京芸術大学を安宅賞を受賞して卒業後、北西ドイツ・デトモルト音楽アカデミーに留学。ヨスト・ミハエリス教授に師事した。75年、ライン・ドイツオペラ・オーケストラの首席クラリネット奏者となる。1976年フランス、コルマル国際室内楽コンクール木管トリオ部門において第2位入賞。78年、ドイツ国家ソリスト試験を最優秀の成績で修了。80年、テッセル・フルト市より「カンマー・ジカール」のタイトルを受ける。1983年、帰国。木管音楽祭、倉敷音楽祭、大垣音楽祭、宮崎国際音楽祭等に参加。木管音楽祭では、Directorを務める。ジャパン・チェンバー・オーケストラ、マスター・オブ・ブライナーズ、サ・クラリネットアンサンブルのメンバー。武蔵野音楽大学教授、日本大学芸術学部非常勤講師、東京芸術大学音楽学部非常勤講師、新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者。

脇岡 総一 (わきおか そういち) オーボエ

広島市に生まれる。1972年東京芸術大学音楽学部卒業。その後、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、東京都交響楽団首席オーボエ奏者となる。その間、1969年日本音楽コンクール入賞、安宅賞受賞、卒業特別演奏会、NHK新人演奏会等に参加。1974年民音室内コンクール入賞。1982年、文化庁海外派遣研修生として西ドイツ・ハンブルクにてW・リバーマン氏に師事。1981年キング・コードより「メトロポリタン木管五重奏団」のレコードが発売される。また、「東京リサイタル」[古典音楽協会]「洗足聖主のミュージック・ライヴ」等を始めとする数々の演奏会に出演。さらに、「FMクラシック・フォー」[午後10時のリサイタル]「クラシック・オン・ステージ」等多くのテレビ・ラジオ音楽番組に出演。日本の第一線のプレーヤーを集めた「アウロブ・チェンバー・アンサンブル」を主宰して日本各地での演奏会、放送などを行う。また、ウィーン・フィル、シカゴフィル、メトロポリタン、クレメント(ob)等 海外の演奏家との親交も数多く、1994年にはロンドン・マゼール指揮のバイエルン放送交響楽団、ピカス・ツッカーマン指揮のイングリッシュ・チェンバー・オーケストラに出演する。また、スーパーワールド・オーケストラ・ジャパン・ヴィルト・トリオ・オーケストラ等のフェスティバル・オーケストラにも多数出演する。「脇岡の音」と題するリサイタルシリーズやオーケストラとの共演を始めとする、独奏者としての数多くのソロ活動も精力的に行い、日本音楽コンクール、全日本吹奏楽コンクール、日本クラシックコンクール全国大会等多くのコンクールの審査員もつとめている。2005年3月に東京都交響楽団を退団し、4月より高知大学教育学部教授に就任しフルーのオーボエ奏者としても活動をおこなっている。

高知自動車道 高知IC 南田IC JR 四国分岐 大津バypass はりまや橋 高知駅 高知県立美術館 舟入川 高知県立美術館 高知市 国道32号線 国道32号線 Joyful Concert series Kochi THE MUSEUM OF ART, KOCHI 781-8123 高知市高須353-2 TEL088-866-8000 FAX088-866-8008 http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum